

令和4年度 第1回豊橋市総合教育会議議事録要録

令和4年6月22日 開 催

豊橋市教育委員会

第1回 総合教育会議	
日時	令和4年6月22日(水) 午後3時00分～4時00分
場所	市役所東館4階 政策会議室
構成員	浅井 由崇 市長 山西 正泰 教育長 渡辺 嘉郎 教育委員 内浦 有美 教育委員 中島 美奈子 教育委員 西島 豊 教育委員
事務局	杉浦 康夫 副市長 朽名 栄治 財務部長 種井 直樹 教育部長 芳賀 信明 財政課長 浅倉 淳志 教育政策課長 中村 三木也 学校教育課長 石川 和志 生涯学習課長 古関 智子 教育政策課指導主事 尾瀨 祐介 教育政策課主任 ほか 5名
その他	傍聴人 2名

議事日程

協議事項

- 1 コミュニティ・スクールの導入について

その他

- 1 今後の協議事項について

連絡事項

次回開催日程 令和4年8月17日(水) 15:00～

(教育部長)

ただいまから令和4年度第1回豊橋市総合教育会議を開催させていただきます。議題は、コミュニティ・スクールの導入についてです。

協議事項

1 コミュニティ・スクールの導入について

■教育政策課長 協議事項について資料説明

(教育部長)

それでは、ただいまの説明に対するご意見やご質問をお伺いしたいと思います。よろしくお願いたします。

(渡辺委員)

すでに準備段階に入っている学校について、具体的にはどのような準備を行っていますか。

(教育政策課指導主事)

準備校においては、委員候補者について検討を行っているほか、今後評議員の方に対してコミュニティ・スクールの導入を伝えていくにあたり、どのような形で伝えていくのかなどについて考えている状況です。

(渡辺委員)

コミュニティ・スクール導入の目的を実現するためには、地域の方々に対して、早めの段階から制度の意義や今後の必要性などを知ってもらうことが必要と考えますが、住民の方へのアプローチについて、何か行う予定はありますか。

(教育政策課指導主事)

現在、コミュニティ・スクール推進委員会の方で、地域や保護者の方向けの啓発用チラシを作成しているため、完成後には学校に配布して、必要に応じて活用してもらえようにしたいと考えています。

(渡辺委員)

コミュニティ・スクールの導入にあたり、少なくともその校区の自治会長には、予め制度の概要や趣旨を理解してもらう必要があると思います。また、のびるん de スクールとも連携し、地域で子どもを育てるという意識を行き渡らせることも重要かと思います。

コミュニティ・スクールを効果的に導入できれば、教員の働き方改革にもつながると思いますが、逆に失敗すると負担だけが多くなってしまいうことになりかねないため、そういう点は気をつけておく必要があると思います。

(中島委員)

全国的な流れに乗ることも重要ですが、なぜ豊橋市においてもコミュニティ・スクールが必要なのかについて、理由を明確にし、導入の効果を市民や保護者、地域の方に伝える必要があると思います。

説明資料に登場した四つの課題については、コミュニティ・スクールの前から乗り越えようと努めてきた課題だと思いますが、コミュニティ・スクールを導入することで、全てが解決されていくのかについては、深掘りをする必要があると思います。

また、説明の中では「熟議」という言葉が強調されており、そこが重要なポイントかと思いますが、動画内で熟議を行う際に登場したコーディネーターという役割の方は、どのような立場の方を想定しているのでしょうか。

(教育政策課主任)

地域学校協働活動のコーディネーターを置いている学校では、その方が担当されており、その他の学校では教頭先生がそのような取りまとめを行っているケースが多いです。

(中島委員)

学校評議員制度と学校運営協議会制度についてですが、例えば評議員の方がそのまま協議会制度の方にも移行される場合もあるというイメージでよろしいでしょうか。

(教育政策課主任)

その通りでございます。

(西島委員)

地域の教育に限らず、あらゆる組織や会社経営において、企業間連携や団体間連携が求められており、そのセオリーについてはコミュニティ・スクールと通じるものだと考えています。

しかし、いかに実現に導くのか、アクションプランに落とし込んだ時に、どのようなことを描けるのか、具体的な導入スケジュールまで作り出せると、それぞれの校区で取り組むステップが見えてくるかと思います。

また、スタートとゴールだけに着目するのではなく、先行する他の組織においては、成果を実現するためにどのような努力をしたのか、どのように課題を乗り越えたのかなどについても着目することが重要であり、そのことによって豊橋市が目指すコミュニティ・スクールの実現につながっていくように思います。

(内浦委員)

豊橋でコミュニティ・スクールを導入する意義について、保護者や地域住民という立場から見れば、文科省の方針に従うためにやっているとしか思えないような気がしてしまい、もったいないという印象を持ってしまいます。

私が地域再生や地域の活性化などの仕事に携わる中で、このような新しいシステムの構築を成功に導くためには、二つのポイントがあると考えています。一つは明確な課題があり、困っていることがあるということ。もう一つが、個々にメリットがあることであり、この二つがないと地域を動かすのは難しいです。

今、のびるん de スクールが成功している理由は、この二つが明確であることです。部活がなくなってしまうという課題があり、そしてもう一つには保護者個人の負担が減るというメリットが生じています。コミュニティ・スクールにおいても、このような課題や個人のメリットを示せない限りは、学校評議員がコミュニティ・スクールに移行するだけだと見られてしまいます。課題の設定方法などを工夫せず、熱意や熟議のみでコミュニティ・スクールを成功に導くというのは難しいように思います。

(教育長)

豊橋市には今でも地域教育ボランティアという制度がありますが、もし先ほどのコーディネーターを教頭先生がやることになれば、制度として何も変わらなくなってしまうので、コーディネーターについては学校から離れた方がいいと考えています。

(内浦委員)

今回、コミュニティ・スクールに移行するにあたっては、課題の解決のために、無くては困る人や仕組みを当てはめていく必要があると思います。教頭先生とは切り離した形で、専門的なコーディネーターが、課題を専門的に解決してくれるような立ち振る舞いをするのが重要なのかなと思います。

(中島委員)

国がコミュニティ・スクールの導入を呼びかけているのは、教育課題の解決に向けて、それだけの効果があるからということなのでしょう。

(教育政策課主任)

コミュニティ・スクールの前の学校評議員制度の時は、地域に開かれた学校を作っていくということで始まりましたが、一番の要因としては東日本大震災の際に、地域とのつながりが強かった学校は、早期に地域の復興が進んだということもあって、そこから地域とともにある学校という考え方が深まるようになりました。

地域ぐるみで子どもを育てていこうという考えがコミュニティ・スクールの根底にあります。先ほどありましたように、過疎化や、問題行動の多い地域など、課題が明らかに分かっているような学校は取り組みやすいのですが、課題がはっきりとしていない学校については、それぞれの学校が課題を洗い出していくことが大事かと思います。

また、先ほど内浦委員からは、市としての課題設定という話がありましたが、一部教育委員会の中には、そのような目標を掲げて進めているところもあります。先ほどご紹介した春日市については、主権者意識の醸成ということを掲げており、このコミュニティ・スクールを活用して、色々な体験活動をさせ、児童生徒を関わらせて、主権者としての意識醸成に努めています。

(市長)

コミュニティ・スクールの実施にあたっては、地域人材が大きな影響を与えるかと思いますが、コミュニティ・スクールは校区ごとに行う必要があるのでしょうか、あるいは、豊橋市という地域全体で行うことはできないのでしょうか。

(教育長)

学校の経営方針を承認するためには、豊橋市全体ではなく、やはり校区ごとに実施する必要があるのだと思います。

(市長)

コミュニティ・スクールに参加する方には、学校の方針を審査するために相当な能力が求められると思いますが、果たして全ての小学校区において、そのような人材を確保することができるのか、例えば中学校単位で広げていくという考え方もあるのではないのでしょうか。

また、コーディネーターについては、地域にとらわれずに選任したり、教育委員会から

派遣する仕組みにしたりするなど、地域に任せっぱなしとならない柔軟な仕組みが必要かと思います。

(西島委員)

例えば、コーディネーターを職種で絞っていいということであれば、市と商工会議所とが連携し、そこから派遣してもらうというやり方もあるかと思います。

(渡辺委員)

先ほど各地域の方たちの理解は大事という話をしましたが、教員の方々の理解のために、何かアプローチしていることはありますか。

(教育政策課指導主事)

今年については、夏休みの時期にコミュニティ・スクールに関する研修会を開催する予定です。

(市長)

渡辺委員の言われたとおり、学校の先生や地域の方たちが、コミュニティ・スクールを導入することによって、どのようなことが起きるのかということイメージできないといけないと思います。

(教育部長)

それでは、時間となりましたので、市長から本日の総括をお願いします。

(市長)

委員の皆様におかれましては、率直な議論、意見をいただき、ありがとうございました。コミュニティ・スクールに関しては、既に全国各地で様々な取り組みがありますが、それぞれの市町らしい取り組みをしていけばいいと思いますし、重要なのは子どもたちがのびのびと個性を伸ばして成長できるような環境を作っていくために、どのような形でコミュニティ・スクールを導入すべきかという点にあると思うので、その基本的なことを忘れずにやっていきたいと思います。ぜひこれからも皆様のご意見もいただきながら、良い仕組みを増やしていくようにしていきたいと思います。

連絡事項

- ・次回開催日程 令和4年8月17日(水) 15:00～

(教育部長)

以上で、令和4年度第1回豊橋市総合教育会議を終了します。ありがとうございました。